だんじり祭り

10月第2土曜・日曜日に、五穀豊穣を祈願し行われる「だんじり祭」は、各地区の若者たちがそろいの法被姿で、三都神社・狭山神社・茱萸木八幡宮・池之原神社に宮入し、勇壮に市内を曳行します。大阪狭山市には13地区、14台のだんじりがあります。見所は日曜日に行われる連合曳きで、11台のだんじりがパレードをしながら曳行します。

山本地車

隠地車

川向地車

東村地車

山伏地車

今熊地車

大野地車

狭山地車

前田地車

浦之庄地車(休止中)

茱萸木北地車

茱萸木南地車

池之原地車

池尻地車

三都神社

(マップ面 C-7)

創建時期は不明ですが、中世前期に紀伊国熊野から勧請した熊野三所権現を祀った「熊野社」が始まりです。祭神は、伊邪諾尊・伊邪冉尊・素盞嗚尊をお祀りしています。境内には、春日社・初辰大神・熊野三宝荒神・稲荷大神・毘沙門天堂・吉祥水天宮・祖霊社・三都戎神社があります。本殿は、一間社流造りで、正面中央には千鳥破風を設けています。今(最近勧請した)熊野神社を意味する「今熊野」が、地区名の由来です。

茱萸木八幡宮

(マップ面 G-8)

寛永18年(1641)開発の茱萸木新田の氏神として、観心寺(河内長野市寺元)積本院の法印照秀が勧請した八幡神社が始まりです。明治末期の三都神社へ合祀するまでの鎮座地は、大野台1丁目の「宮ノ谷」でした。戦後に「地区内に再び神社を建てよう」との声が高まり、茱萸木中央公民館の敷地に再建します。昭和60年(1985)7月29日に遷工式と遷座祭を行い復祀しました。

狭山神社

(マップ面 I-6)

創建は狭山池の築造以前と考えられています。祭神は天照皇大神・素盞嗚尊(牛頭天王)をお祀りしています。境内には、稲荷神社・戎神社、菊工社・伎社・拾主社・足天社・水本社があります。覆屋内の本殿は、一間社春日造りで、正面中央部に軒唐破風を設けています。明治維新までは牛頭天王社と言われていました。境内と背後の森一体は中世には半田城があったといわれています。

池之原神社

(マップ面 E-4)

創建は、文明18年(1486)とも、天正15年(1587)とも伝えます。紀伊国熊野から勧請した熊野三所権現(熊野社)が陶器山周辺の池之原・今熊・岩室(堺市南区)に鎮座する理由は、多くの人々が西高野街道・天野街道を利用し、高野山経由で熊野古道の小辺路を通って熊野詣をしたためです。明治42年(1909)の三都神社への合祀後も、土地・建物をそのまま残しました。戦後に地元で神社復興の声が高まり、昭和53年(1978)にもとの熊野神社の鎮座地に池之原神社として復祀しました。

(マップ面 D-5)

《大阪狭山市地車連合会による連合曳き》

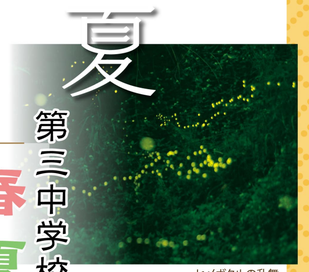
大阪狭山市では、13地区14台のだんじりが曳行されていますが、内10地区11台が、「連合曳き」を行っています。コースは3コースありますが、毎年順繰りで曳行しています。

◇北コース(2012年)
おわり坂→大阪狭山郵便局→岩室地区内→山本地区内

◇南コース(2013年)
茱萸木公民館前→陶器山通り→西山台3丁目南交差点→今熊地区内

◇東コース(2014年)
三津屋交差点→川向地区内→東村交差点→狭山神社前→浦之庄交差点

第七小学校児童の田植え


ヒメボタルの乱舞

三都戎っさんの餅まき

だんじり祭り

夏 春 秋 冬

第三中学校区の 春 夏 秋 冬

《発行にあたって》

ふだん何気なく暮らしているまちにも、何か目的を持って歩けば、新しく発見する楽しいことがたくさんあります。こうした地域の魅力資源を1枚の地図に表し、それを持ってみんながまちを歩けば、その地域の良さをみんなで共有でき、まちへの愛着が大きくなります。私たち、第三中学校区まちづくり円卓会議は、地域の魅力を通して人と人の係わり合いを大切にしたいと考えています。三中円卓マップが、地域を見直し魅力あるまちづくりのコミュニケーションツールになれば幸いです。

発行　平成24年12月　第三中学校区まちづくり円卓会議　魅力再発見チーム

地名編

山本【やまもと】

大平大明神(マップ面 C-3)

市域の北西部に位置し、中世に狭山郷日置荘に属しました。元禄15年(1702)に大野芝山という丘陵地を開発してできた新田村落です。江戸幕府の直轄領を経て、宝永2年(1705)から幕末までは旗本水野氏の領地でした。西側の山本、北側の口大野、東側の山伏という3地区からなり、昭和62年(1987)の市制施行を機会に「山本」へ町名変更し、山本北・山本中・山本東・山本南になりました。

口大野・隠【くちおおの・かくれ】

稲荷神社(マップ面 C-2)

山本北を通る西高野街道は、堺市中区との境界道路になっています。この東の大阪狭山市側が「口大野」と呼ばれ、西の堺市側が「隠(かくれ)」と呼ばれていました。「隠」という地名は、丘陵地の藪や森林で金剛山が隠れて見えなかったことから付けられた「金剛山除」に由来します。

山伏【やまぶし】

弁財天(マップ面 E-2)

山伏という地名は、山中で修行する山伏がやってきて地元の寺で僧と囲碁勝負をした伝承があることから、修験道の山伏に由来すると考えられています。また、山の柴地にちなむともいわれています。

今熊【いまくま】

今熊は、市域の中央部西端の丘陵地帯にあり、古くは別所と称したと伝えます。中世には狭山郷日置荘に属し、金蔵寺の鎮守として熊野権現を勧請した「今熊野」(現在の三都神社)という名称が、地名の由来です。文禄3年(1594)に北条氏規の領地となり、元禄12年(1699)から幕末まで江戸幕府の直轄領でした。西高野街道が通り、上今熊で天野街道と分岐しています。地区内の集落は、おわり坂を境に分かれる上今熊・下今熊と三ツ家があります。狭山ニュータウンの北側入口にあたり、市立公民館・図書館・老人福祉センターなどの公共施設が集まっています。

三都戎神社(マップ面 D-7)

池之原【いけのはら】

池之原は、西高野街道が走る西側の丘陵と、東側の狭山池の間にはさまれたところにあります。近世には岩室村と呼ばれていました。万治元年(1658)に村名を岩室村から「池ノ原村」としますが、寛文9年(1669)に再び岩室村となりました。明治22年(1889)に市町村制の施行によって大阪府丹南郡三都村大字岩室→狭山町岩室→大阪狭山市岩室→池之原となりました。狭山池より高い所にあるため、地区内に溜池を築いて農耕をしたので、現在でも多くの溜池が残っています。

西福寺(マップ面 E-4)

岩室【いわむろ】

岩室山観音院(マップ面 D-5)

岩室は、市域の中央部西端に位置します。地名の由来は、古墳の石室の可能性もありますが、堺市側の高倉・片蔵・富蔵や釜室・岩室と同じく、古代陶邑で生産した須恵器を貯蔵する倉庫にちなむと考えられます。中世には狭山郷日置荘に属しました。近世には現在の池之原とともに岩室村と呼ばれました。地区の西端を通る西高野街道は、西側の堺市南区との境界道路になっています。地区は、上・下・観音畑の三つに細分され、これが近隣組織として互助の単位になっています。

半田【はんだ】

風輪寺(マップ面 I-7)

市域東部の狭山池東部から西除川(もと天野川)沿いにあり、西除川左岸の川向、右岸の東村・前田・舗之庄、地区北側の北村という5集落からなります。地名の由来は、「日本書紀」の「河内狭山の埴田」と出てくる赤色で粘り気のある粘土の水田「埴田」が、半田に変化したと伝えます。中世には大半が興福寺領狭山荘に属し、一部が皇室領でした。近世には、江戸幕府の直轄領を経て、宝永2年(1705)から支配が次々に変わり、文化9年(1812)から幕末まで小田原藩領でした。

茱萸木【くみのき】

賽の神(マップ面 G-8)

市域南部の中位段丘面の平坦地に位置します。寛永18年(1641)に芝地「茱萸木の平」を開墾した新田村落です。西高野街道が縦貫する南北に細長い村域をもちます。集落は、北から順に亀之甲、茱萸木、草沢とよばれます。春日大社(奈良市)に残る弘長3年(1263)に出された興福寺(奈良市)宛ての「太政官符」には、大阪狭山市付近で田畠開発を許可した範囲の西端と南端が「佐志久美岡」「久佐佐峰道」と示されています。このうち「さしくみ」の「くみ」が残って「くみのき」、「くささ」が「草沢」になったと考えられます。

東茱萸木【ひがしくみのき】

昭和62年(1987)の市制施行にともなって茱萸木へ町名変更されましたが、南海金剛住宅とその周辺については、昭和63年(1988)に東茱萸木に町名変更されています。

ヒメボタル生息地(マップ面 I-9)

番外編～おわり坂～

上今熊から老人福祉センターの南側を通り、三津屋川に架かる地蔵橋にいたる急坂を「尾張坂」といいます。この地名は、狭山池の改修工事にも従事した尾張国出身の出稼ぎ土木技術者集団「尾張衆」、あるいは上今熊から南へ舌状に突き出た地形に由来すると考えられています。

おわり坂からの風景(マップ面 E-6)

街道編

大阪狭山市は、大阪と高野山を結ぶ線上にあり、昔から交通の要地でした。「西・中・下」の3つの高野街道が通っています。西高野街道から今熊で分岐し、天野山金剛寺へと向かう天野街道もあります。さらに市内には、伊勢へと通じる東西の道(伊勢道)もありました。それで、狭山や周辺に住む人たちは、歩いて旅をする人たちに便利なように道路沿いや角に、道標や地蔵・石灯籠など数多くの石造物を設置して、目印や案内表示としました。それらの多くが現在も残っており、今でもかつて高野山や伊勢神宮への参詣者たちが歩いた道をたどることができます。

(マップ面 D-4)

(マップ面 D-4)

街道図

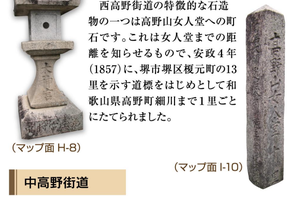
西高野街道

(マップ面 E-5)

西高野街道の起点は、堺市の大小路と大道筋が交差したところです。そこから堺市堺区榎元町で竹内街道と分岐し、北区中百舌鳥町・東区草尾・中区福田を通って大阪狭山市に入っています。市内では、山本・岩室・今熊・茱萸木と進み、河内長野市楠町東で中高野街道と、同市古野町で東高野街道と合流します。あとは一本の道になって紀見峠を越え、橋本から高野山へ至ります。

西高野街道の特徴的な石造物の一つは高野山女人堂への町石です。これは女人堂までの距離を知らせるもので、安政4年(1857)に、堺市堺区榎元町の13里を示す道標をはじめとして和歌山県高野町細川まで1里ごとにたてられました。

(マップ面 H-8)


(マップ面 I-10)

中高野街道

(マップ面 I-6)

中高野街道は、大阪市天王寺区の四天王寺を起点とし、平野区の大念佛寺から平野区喜連・瓜破を通り、大和川を越えて松原市三宅・阿保・上田・丹南、さらに堺市美原区真福寺・多治井・菅生を経て大阪狭山市に入ります。本市では、東野・狭山藤跡を通り、報恩寺付近で下高野街道と合流します。そのあとは大阪狭山市駅から南海高野線に沿って金剛駅西へと進み、風輪寺の南から本市を離れ、富田林市伏山に入ります。

下高野街道

下高野街道は、大阪の四天王寺から南下し、松原市西部あたりから北野田駅東の北、南野田、狭山駅西、池尻中1・3丁目、狭山池北堤とたどって「さやま橋」で中高野街道と合流します。

天野街道

西高野街道が山本から岩室観音院を過ぎて今熊にくると、道は西高野街道と天野街道に分岐します。この分岐点を右折し、三都神社を左に見ながら陶器山沿いに南下する道が天野街道です。大野西・大野を通り、堺と河内長野の市境に沿って南下し、河内長野市下里町から天野山金剛寺へと通じています。

文化財

〈吉川家住宅(半田)〉
(マップ面 H-6)

江戸時代初期の建築といわれ、河内の農家の姿をよく伝えています。当初の間取りは田の字型で、家への入り方は、屋根の長い面に対して垂直に入口を設ける妻入りの形になっています。現在は非公開です。

〈辻家住宅(池之原)〉
(マップ面 E-4)

主屋は、明治12年(1879)ごろ再建された茅葺と瓦葺の大和棟です。昭和48年(1973)に大和棟の外観を残して歴史的景観に配慮した改造をし、平成18年(2006)に国の登録文化財になりました。

〈松田家住宅(茱萸木)〉
(マップ面 G-9)

主屋は、明治初期の建築と伝え、入母屋屋根をもつ近代和風建築です。平成21年(2009)に国の登録文化財になりました。

〈大野懐絵図〉
絵図とは、現代のような精密な地図がなかった時代に、山並・河海・池沼などの自然地形と、城郭・寺社・道路などの人為的造営物を書き込んだ平面図と景観図の混用された地図です。大野懐絵図は元禄15年の作で、平成22年(2010)に大阪狭山市の有形文化財に指定されました。
(帝塚山学院大学所蔵)

〈紺本著色釈迦如来及四菩薩像〉
半田の融通念佛宗寺院の風輪寺に伝わる仏画です。平安時代末から鎌倉時代の作と推定され、紺地の画面中央に釈迦如来、四方に菩薩像を描いています。平成8年(1996)に大阪狭山市で初めて国の重要文化財に指定されました。

イベント

〈ヒメボタル〉

西除川の上流2km付近に、大阪府レッドデータブックの準絶滅危惧種に指定されている貴重なヒメボタルが生息しています。

ヒメボタルはゲンジボタルやヘイケボタルと異なり陸性で、幼虫は竹やぶや森の落ち葉の中でキセルガイを食べて生育します。

5月下旬から6月上旬が見どころで、淡い優美な光を放ち乱舞する様を是非鑑賞してください。このホタルは「狭山ヒメボタルを守る会」が保護しています。

〈亥子(いのこ)〉

稲の収穫が終わったころ(毎年11月23日)に行われる子どもの行事です。

子どもたちがその年に収穫した稲の新藁で棒状の「亥子小槌」を作り、これを持って歌を歌いながら各家を回って門口で地面をたたきご祝儀をもらいます。山本地区の一部(山伏)で今でも行われています。

〈伊勢大神楽〉

10月11日に伊勢大神楽講社の山本源太夫が桑名から来て、獅子舞と「剣三番獲」や「献燈の曲」などの曲芸を三都神社で奉納します。

イベントカレンダー

1月	三都戎神社例祭
	狭山戎神社例祭
3月	池之原神社琴平祭
4月	狭山池まつり
	桜まつり(春)
5月	狭山ヒメボタル
6月	狭山ヒメボタル
7月	地蔵盆
8月	地蔵盆・盆踊り
10月	だんじり祭(第2土日)
	伊勢大神楽
11月	西小学校さんとまつり
	第七小ふれあい広場
12月	サンネットフェスタ
	桜まつり(冬)